

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々(1階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32番地		
自己評価作成日	令和3年10月25日	評価結果市町村受理日	令和4年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170600486-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和3年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは岐阜市と岐南町の境の静かな場所にあります。「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を」送って頂けるように暖かいホームを目指しています。身体拘束廃止を徹底し、安全に配慮しつつ自由な暮らしをして頂けるように努めています。コロナ禍においては外出や面会制限がありましたが、ホーム内での楽しみごとのレクリエーションや外食に代わるお取り寄せメニューで対応しています。暮らしの日記を作成しご本人の様子がご家族に伝わりやすいように写真と一緒に毎月郵送しています。看取りについても医療と連携しながら職員と心を込めて取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在もコロナ禍にあり、面会や外出等の制限はあるが、管理者と職員は、利用者がホーム内で楽しく過ごせるよう、レクリエーションや外食に代わる支援を考え、実施している。リビング・ダイニングの共用スペースは広く、利用者がゆったりと過ごせる空間となっている。管理者と職員は、常に利用者一人ひとりの尊厳を守り、言葉遣いに配慮しながら支援し、利用者が心安らぐ毎日を送れるよう、介護のプロとして研鑽を重ねている。また、地域にある他法人の同業者と共に、Web会議や合同運営推進会議を開催するなど、地域で一丸となって利用者サービスの改善を図るなど、新しい取り組みに着手している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々(2階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32番地		
自己評価作成日	令和3年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和3年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1階・2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中でこころ安らぐ毎日を」という理念に基づき、利用者さんが第二の家庭として穏やかに生活して頂けるよう心温かい支援を目指し取り組んでいる。	理念を常に意識できるよう、スタッフルームに掲示している。理念に基づいたケアを実践する為に、1階では、全体と各個人の月間目標を立てて取り組み、2階では、全体の月間目標を立てるなど、ユニット毎に工夫をしながら、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため側溝掃除は中止になりましたが、自治会のラインが新しく出来、登録。自治会からの連絡はわかりやすくなった。近隣の方が古新聞を届けて下さったり、リサイクルゴミの出し方なども教えて頂くなど交流を図れている。	自治会に加入し、様々な地域の活動に参加していたが、コロナ禍にある為、LINEにて自治会長から情報を得たり、相談をする程度に留めている。地域のサロンへの参加も休止中である。近隣住民から古新聞が届き、様々な場所で工夫しながら再利用することができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月サロンに参加し、地域の方と利用者さんとの交流を図ってきたが、現在は中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の感染防止対策のためホームでの会議開催は中止しており、活動報告や議事録を提出している。11月町内の5つの施設での合同会議を実施予定。コロナ禍での取り組みや課題を話し合う予定。	感染防止対策の為、書面会議とし、活動報告や利用者状況等の報告を行いながら意見交換を行っている。11月末に役場にて、町内にある同業者と合同運営推進会議を実施し、情報交換や課題解決に向けた検討を行うなど、地域の新しい協力体制作りを始めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告や相談を行いながら助言を頂いたり、事故報告書を持参しホームでの状況を報告している。	町の担当者とは可能な限り、直接対面での報告と相談を行い、助言を得るなど協力関係を築いている。地域包括支援センターとも、利用者の支援方法について相談し、協力を得ながら、より良い利用者サービスが行えるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをするために3ヶ月ごとに事例や勉強会を実施、拘束をしない支援方法を職員間で話し合い、ご家族にも説明、ご理解を得ている。またスピーチロックの勉強会も行い、言い換えの工夫や分かりやすく伝えることを学ぶ機会を設けて取り組んでいる。	定期的に身体拘束委員会を開催し、事例検討と勉強会を行っている。管理者は、職員が日頃の支援の中で、スピーチロックを自覚していなかった事例を挙げ、間違った思い込みや言葉かけによって、事故や拘束に繋がることを繰り返し伝え、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施、身体的な虐待だけではなく、言葉の虐待もあることを全職員で学ぶ機会を設けた。日頃の利用者さんの体にも注意を払い小さな内出血があれば原因と対策を立て、皆で取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はみえない。今後学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ありのままのホームを見て頂きホームで出来る事と出来ないことを説明している。ご本人も出来るだけホームを見て頂くようにお伝えし、難しい時は面会に行き様子を伺うことにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	暮らしの日記に生活の様子やご本人の言葉を載せて写真と毎月の便りと一緒に郵送。今はコロナで外出出来ないため取り寄せメニューなど利用者さんのリクエストにも対応。面会は玄関扉越しで行い、その都度職員が状態報告を行っている。	日々の支援の中で利用者の要望を把握し、家族の意見や要望は、電話や面会時に聴いている。毎月、事業所の活動報告や予定を記載した便りと利用者個々の様子を1日1行にまとめた「暮らしの日記」を家族に郵送している。また、意見箱を設置し家族の意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の提案や意見を言いやすい環境作りに取り組み、出された意見を検討、反映している。車椅子用の洗面台の高さ調整や手すりの長さ、必要物品の購入など、よりよくするための意見が反映されている。	管理者は、職員が相談しやすいよう日頃から信頼関係作りを努めている。職員会議では、誰でも発言することができ、職員一人ひとりの意向や気づき、アイデアも、管理者から代表に報告されている。設備や備品購入についても、提案や要望を出す機会を設けている。	今後も、職員が更に経験と学びを積み重ねながら、モチベーションを維持できるように、入社時のオリエンテーションから、段階的に行う学習や研修プログラムを職員に明示されることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を分かるようにファイリングし、いつでも見られる状態で保管、変更点はその都度説明している。希望休の受け入れや家庭の状況に合わせた勤務態勢、急な休みの対応、有給休暇の推奨など働きやすい職場作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決めて各担当者が資料を準備しての勉強会の他、身体拘束の勉強会や認知症の理解と関わり方の勉強会を実施している。日頃のケアの中で対応に困ったことはその都度相談、助言、振り返りを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当施設の他のホームとリモート会議を3ヶ月ごとに実施、困っていることなど意見交換する場が設けられている。また、町内の介護施設とは電話で相談に乗って頂いたり、11月には年に一度の合同運営推進会議を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では必ずご本人に会い、何気ない日常会話から徐々にご本人の思いや困っている事、不安なことを聞き出せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱えている問題や不安に耳を傾けつつ、ホームで対応出来る事とご家族様にも協力を頂きたいことをお伝えし、一緒に支えていく関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の状況に応じて開始時期を決めている。他のサービス利用については徐々にご本人の状態に応じて進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全て決めて行うのではなく、出来る事を見極めて利用者さんに分担、役割を持って活動の場を広げている。また、今まで身につけてきた知識や技術を教えて頂きながら利用者さん同士の関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の一行日記で日頃の生活の様子が伝わり易いように工夫している。また正直な報告をすることで生活する上で困っている事を一緒に考え支えていく働きかけをしている。ご本人が欲しいものなどはメールを利用し、すぐに対応出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染みの場所への外出が困難となり、馴染みの外食を取り寄せにし関係の維持に努めている。また感染状況に応じて、面会方法を変更し、玄関でのドア越しでの面会は遠慮なくインターホンを押して頂く様に声かけしている。	コロナ禍の感染症対策として、馴染みの人との面会を制限をしている。家族との面会も10月までは、玄関のドア越しに行い、11月からは地域の感染拡大状況を考慮しながら、玄関ホールで実施している。馴染みの訪問美容師は継続して訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係性を観察しながら席を考慮している。固定にならないように年に数回は席替えを実施。利用者さん同士で声を掛け合い、助け合う姿も見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる際にはご本人に出来るだけご負担が行かないように配慮している。また移られてからも困ることがないように細かく情報提供している。入院により退去された方もその後のご様子を連絡下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各フロア固定している職員配置を進め、利用者さんが思いを表しやすい関係作りに努めている。また、利用者さんの立場に立って考えること、日々の暮らしの中での気づきを大切にし、情報の共有を図っている。	日々のケアの中で利用者の思いを聴き、落ち着いて生活できるよう支援している。意思表示が困難な利用者には、表情や声かけの反応を見ながら思いを汲み取り、職員間で共有しながら本人本位の支援となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴の把握に努め、アセスメント、ファイルを見やすい位置に設置。生活歴を把握することで日頃の会話にも活かされ、利用者さんがご自分の話をするきっかけ作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コロナ禍にて一日3検実施、体調管理に努めている。常勤看護師が常駐しており、心身状態に変化があれば報告し適切な指示を受けている。利用者さんの出来る力を会議で話し合い自立支援に向けてケアの見直し、統一を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々介護計画を確認しながら支援し、毎月の会議で振り返り、評価修正を行っている。また細かく記録に残すことで把握しやすい記録作りに努めている。利用者に変化があれば臨時で話し合い対応策を立て数日間の実施と評価を行っている。	管理者は看護師資格を持ち、ケアマネジャーでもある。ケア会議開催前に、医師の意見を確認し計画作りや見直しの参考にしている。家族の意向は、訪問時に聴き計画に反映させている。職員は日々、介護計画を確認しながら支援に努め、毎月の会議でも振り返りを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者さんごとの介護記録とケアプランファイルがあり記録に残している。変更部分や処置方法などは連絡ノートを活用し、勤務に入る前は把握した上で入るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症状の進行や身体機能の低下により受診が困難になった方への往診への切り替えや身体障害者手帳の申請も行っている。3ヶ月毎の美容院、毎週歯科往診、訪問マッサージも希望者に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により外出は出来ないが、近隣をお散歩したり、外壁工事の方とお話をしたり、新しい関係が築けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人とご家族が相談し自由に決めて頂いているが、提携医以外の通院に関してはご家族の方でお願いしている。途中からの変更も可能であり、受診から往診への切り替えも対応している。往診の方も必要時受診対応を行っている。	協力医への受診は事業所に対応し、従前のかかりつけ医や専門医への定期的な受診は、家族に依頼している。家族の都合がつかない場合や緊急時には、職員が適切に対応している。入居後に、かかりつけ医から協力医への変更や通院から往診への切り替えなどは、本人・家族の希望に応じて、その都度サポートしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐しており日常生活の中で気づきや状態の変化があった時は報告し、適切な指示を受け対応している。休日夜間は電話対応出来る体勢を整えており、介護職と連携し対応。主治医への報告、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリーを早急に作成しスムーズな情報提供を行っている。退院時は入院先から情報を頂き本来ならご本人と面会し実際の状態と情報を確認し退院調整を行っている。コロナ禍で面会出来ないときは電話で対応し、細かに状態を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における方針は段階的に話し合いながらご家族の意向を確認、ご本人だったらどうしたいだろうと家族で話し合ってもらい終末期に向けたホームで出来る対応を説明、準備している。看取り後は振り返りと職員の心のケアを行っている。	看取りに関する勉強会で事例検討を行い、個々のスキルを高めている。看取りを経験したスタッフから終末期介護の流れ、利用者の状態や家族の思いの変化等、職員間で話し合いながら振り返りを行い、次のケアに活かしている。管理者は、看取り後の職員の心のケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部勉強会の実施と11月には消防署による心肺蘇生技術研修の受講。また、事故や怪我はすぐに看護師に連絡を取れる体勢が整っており、指示を受けながら落ち着いて対応出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の他水害訓練も実施している。前回の課題となった避難完了の確認の徹底や避難袋に入れるファイルや内服薬について職員で再確認している。備蓄類の確認と補充は年末に実施している。	新型コロナ感染拡大となる前は、地域の防災訓練にも参加し、地域との協力体制作りにも努めていた。これまで夜間を想定した避難訓練が多かったが、昼間を想定して実施したところ、課題が多く見つかった為、改めて避難誘導や支援方法について見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや日頃の言葉遣いに配慮しながら、毎月各階で今月の目標を立て毎日申し送りの際に読み上げてから業務に入ること、一日の始まりに再確認出来るようにしている。トイレや更衣時などのプライバシーの確保など自尊心にも配慮している。	常に利用者一人ひとりの尊厳を守り、言葉遣いに配慮しながら穏やかな対応を心がけている。出勤時には、一人ひとりに挨拶をしてからケア業務に就いている。入浴やトイレの介助時にはプライバシーと羞恥心に配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話しが少ない方にも答えやすいような問いかけをし、自己決定の場、意思表示の場を設けている。コロナ禍の為楽しみにしている外食にいけなため、日頃の会話から食べたい物の希望に添えるように努めたり、ご家族にお伝えすることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分に応じてご本人のペースで居室だけでなくフロアーや他の階で過ごされている。お散歩は出来るだけ午後から行くことが多いが、行きたい方を伺い一緒に気分転換を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に一度2チームに分けて訪問美容師が来られる。カットだけでなくカラーや顔そりを頼まれる方もみえる。普段から服装も毎日同じ服や汚れたままにならないように気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや種取りや各階へのお使いなど食事作りへの参加を勧めている。パーティーションで仕切りはあるが出来るだけ今までと変わらないスタイルにしている。職員は一緒に机で食べるスタイルをやめ、距離を開け違うテーブルでの食事に変更。	管理者が買い出しを担当し、職員が調理を行っている。準備作業は、利用者も出来る範囲で関わられるよう支援し、利用者の状態に合わせた食事形態で提供、声掛けをしながら介助を行っている。現在は、感染予防対策として、職員は利用者と別席で食事をするようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じてお粥や刻み食、一口大、トロミなどに対応。トロミについては付具合を統一し、むせが多く見られるときは早期に見直しをし誤嚥しないケアに努めている。食事量や水分量も把握し別の物を勧めてみたりと柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を導入したことで治療だけでなく毎週のケアや口腔ケアのアドバイスを受けたり義歯の不具合にも早期に対応。毎年無料検診も実施している。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握と羞恥心や自尊心を考慮してトイレで座って排泄することを大切に、必要に応じて二人介助で行っている。パットは個々にあった物を検討し使用、見直しを定期的に行い自立支援と経済的負担の軽減に努めている。	利用者の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導でトイレでの排泄を支援している。定期的に、昼夜の排泄状況に応じた下着の種類や排泄用品の素材・吸収量・サイズの選択等を検討し、適切な選択を行い、家族の経済的負担の軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1ヶ月の排便管理を行い、下剤の調整や坐薬の使用、食べ物など個々に応じて対応している。また午前午後からの体操以外にも廊下のリハビリを声かけ勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中の時間帯が多く、週3回をベースとして朝籠をお渡し一緒に着替えを準備、入浴があることを早めにお伝えしている。立位が難しい方は移動時に二人介助で行い、安全に配慮している。入浴での気づきはその日の内に職員間で共有している。	週3回を基本に、ゆっくりと湯船に浸かって入浴を楽しめるよう支援している。立位が不安定な利用者には2人介助で支援している。脱衣所や浴室の手すりは、利用者の状態に合わせて付け直したり、増設するなど、安心・安全に入浴ができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて休憩時間を設けている。座っている時間が長い方には歩く機会を作り足の運動をする場を設けている。昼食後は一休みされる方が多いが、フロアで自分の時間を楽しまれる方もみえる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットはダブルチェックにてセットミスを防いでいる。服用時には日付と名前、時間を口に出してカレンダーで確認することを徹底し、誤薬に気をつけて取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る部分を見極めその人に合った役割活動を勧めている。同じ方ばかりにならないように出来る力を活かして職員が割り振ってお願いしている。他の階へのお使いもお願いし交流の場としている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出などの外出は出来ないが、感染対策をしてお散歩に行くようにしている。現在は玄関ドアごでの面会となり、ご家族との外出が出来ていないが今後の感染状況を見ながら判断していく。	新型コロナ感染予防対策として、今までのような外出支援は自粛し、病院への受診、玄関のベンチでの外気浴、近隣の散歩等に留めている。収束後には、感染状況をみながら、以前のような支援や家族との外出を再開できるよう、時期を検討している。	

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については契約時に説明し、ご希望であればご本人管理で金額は多くならないようお願いしている。ホームで使う個人的なパットや散髪代、受診代はこちらで立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望時は職員が電話をかけご本人とお話し出来るように対応。ご家族からの電話はいつでも対応している。携帯電話を持参の方は充電のお手伝いを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には座って靴の脱ぎ履きがしやすいようにベンチを設置。外出から帰所後手洗いが出来るように新しく洗面所が設置された。廊下やフロアは車椅子の方が移動しやすい配置になっている。	今年度も、感染予防対策として、リビングや居室への入室はせず、ドア越しの確認となった。玄関ホール・リビング・廊下は広く、大きな窓からは陽光が入り明るく開放的な環境にある。利用者の写真や手作り作品を飾り、楽しい会話のきっかけにもなっている。現在、自由な外出はできないが、玄関やバルコニーでの外気浴等、利用者が気分転換できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同時の関係性や相性を見ながら席の配置を検討。年に数回席替えをし、他の方との交流の機会を設けている。足の状態や排泄が近い方はトイレに近い席にしたり、転倒リスクのある方はソファーとの距離を短くしたり個々に合わせて配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼット、ベッドは備え付けてあり、テレビの持ち込みは自由、馴染みの物や使い慣れた物を持ち込んでみえる方が多い。ご家族の写真や好きな本、作品を飾られたり個性あるお部屋に空間となっている。	居室には、クローゼットやベッドの備え付けがある。使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込み、家族の写真、手紙などを飾り、利用者が落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所の手すりと高さを変更し使いやすくなった。洗面用品は一人ひとりに応じて置き場所を検討しトラブルを防ぎ、自立支援に努めている。トイレにおいても手すりを新しく設置、安全な環境作りに努めている。		